

## 中学校外国語研究部

### I 研究主題

「新学習指導要領をふまえた指導法の改善 ―思考力・判断力・表現力の育成を目指して―」

### II 主題設定の理由

新しい学習指導要領の平成24年度完全実施に向けて、各学校で教育課程の準備が進められている。特に、英語科では週あたりの授業時間が4時間に増えるだけでなく、小学校外国語活動を2年間体験してきた生徒を初めて迎えることにもなる。しかし、中学校での指導内容は、ほぼ現行通りであることから、今回の改訂では、生徒に身につけるコミュニケーションの資質や外国語を運用する能力の質的な向上が求められていることが分かる。

また、学校教育法の改正により「学力の3つの要素」が明記された。それは「基礎的な知識及び技能」、「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つである。そこで、生徒がこれらの3要素を踏まえた学力を身につけることができたかどうかを適切に評価することも求められている。

さらに、私たち研究部員は、「生徒の学習に対する意欲」や「基礎的・基本的内容の習得」、「指導方法の共有化」など共通した課題を持っていた。

以上のようなことから、本研究の主題を設定した。

### III 研究の内容

#### 1 英語科における「思考力・判断力・表現力」の考察

本研究部では、始めに英語科における「思考力・判断力・表現力」とは、「コミュニケーションに必要な知識・技能を活用して課題を解決する力である」と考えた。まず、実際に教室でおこるコミュニケーションの場面を挙げていった。次に、その場面ごとに「思考力」、「判断力」、「表現力」とは何かを考えた。そこで以下のような結論が出た。

- ①「思考力」、「判断力」を使う様子は見えにくい
- ②「表現力」は音声化や文字化されるので見えやすい
- ③「思考力」、「判断力」、「表現力」には一連のつながりがある

それぞれの関係を【図1】に表して整理した。知識・理解は、表現するために必要な要素である。目の前の場面を理解し、それに適する語彙や表現を選ぶときに、思考や判断が行われる。その思考・判断された結果が、表現として出されるのである。

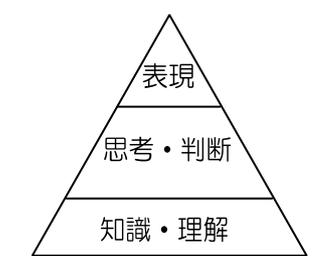


図1 表現を支える知識・理解と思考・判断

#### 2 表現力育成のための指導の工夫

##### (1) スラッシュ型単元構成

本研究部では、言語活動を充実させるために、単元構成を考え直した。その際、広島大学大学院教授の松浦伸和氏が提案する「スラッシュ型単元構成」を参考にした。

スラッシュ型単元構成とは、単元の前半に言語材料の定着を、後半にそれらを活用する言語活動を多く取り入れる考え方である。しかし、現在使用している教科書は、単元がいくつかのセクションから構成されており、セクションごとの指導過程に慣れていた私たち

研究部員にとって、この考え方にかかなりの抵抗があった。そこで単元のゴールはそのままにして、教科書の内容から逸脱しないように配慮しながら、単元構成を設定することにした。

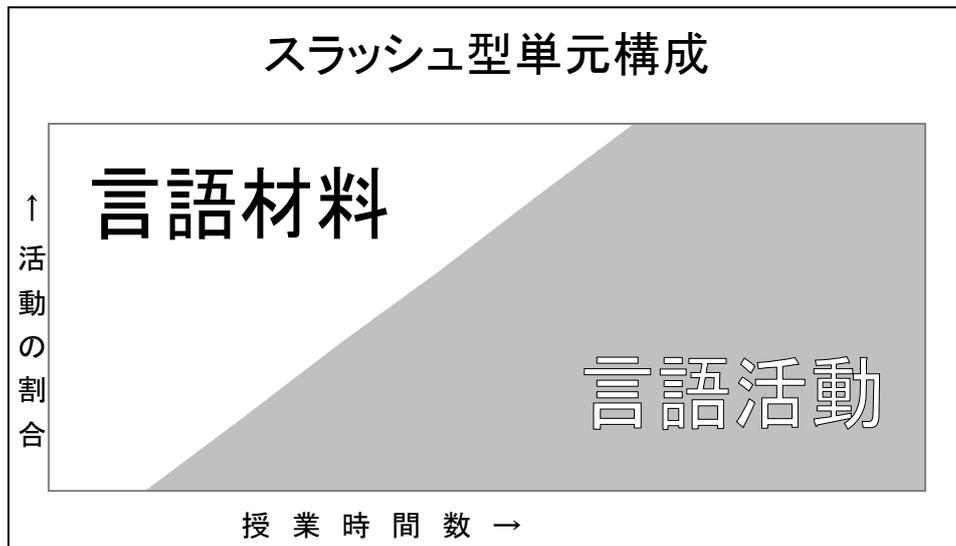
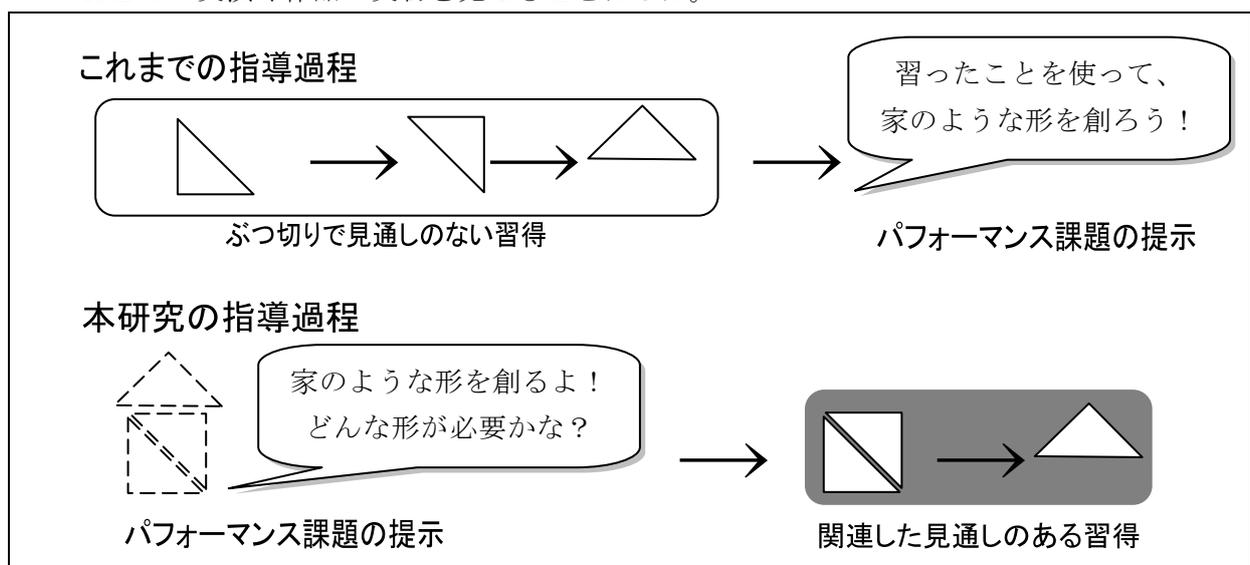


図2 スラッシュ型単元構成のイメージ

## (2) 課題の提示

これまでは、習得した知識・技能の活用を求める言語活動を単元学習のまとめとして最後に設定してきた。既習の知識・技能をさらに活用することで表現する力が身につくからである。しかし、今回は目指す言語活動の課題例を単元学習の最初で提示する手順に変えた。単元のゴールに必要な知識・技能を先に生徒を示すことで、その後の学習に見通しを持ち、意欲的に進められると考えたからだ。提示の提示方法は、口頭による説明ではなく、AETの実演や作品の実物を見せることにした。



## 3 パフォーマンス課題のルーブリック作成

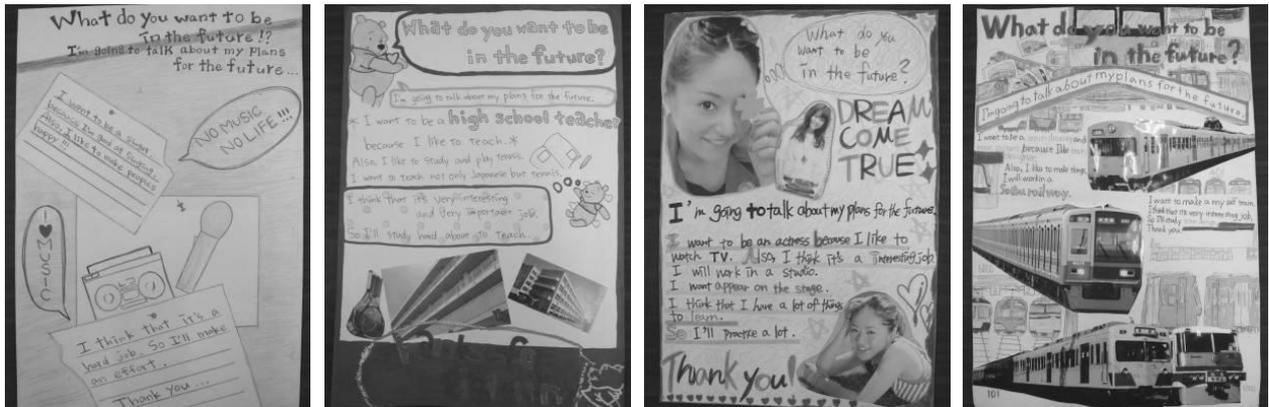
研究の最後に、今回のパフォーマンス課題（ポスターづくり）に対するルーブリックを作成した。ルーブリックとは、「成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対

応するパフォーマンスの特徴を記した記述語から成る評価基準表」である。その作成については、京都大学大学院教育学研究科の西岡加名恵氏の手順を参考した。

実際の作成手順は、次の通りである。

- ①課題実施後に生徒の作品を集める。
- ②それらの作品を見て、2名の教師（1名は授業者）それぞれが、3つの段階に分ける。  
（最終的には3段階に分けられず、それぞれが5段階に分けるかたちになった）
- ③各段階（レベル）に含まれる作品について、どのような規準で分けたのかを説明しあう。
- ④各段階（レベル）の特徴を文章（記述語）で表現する。
- ⑤意見の分かれた作品について意見交換をして、文章（記述語）を練り直す。

【生徒の作品例】



この手順を通して作成されたルーブリックと段階別の作品例を以下に示す。

【今回のパフォーマンス課題に対するルーブリック】

段階	評価基準（記述語）
A	5 自分で調べて表現したり、既習の表現を活用しながら、自分の思いを伝えている。
	4 教師の支援を得たり、例を参考にしたりしながら、表現を工夫している。
B	3 例にならって英語で書くことができています。
	2 例にならって英語で書こうとしているが、文のつながりに不自然さがある。
C	1 英語表現に大きな誤りが多い。

【各段階の作品例】

5	<p>I want to be a beautician because I like hair cut.                      Also, I like to do hair arrangement.                      I will work in a shop.                      I think that it is hard for me to use medicine.                      So, I will study science very hard.</p>
3	<p>I want to be a public official because I want to get stable money.                      I will work in an office.                      I think that it is very difficult.                      But I will do my best.</p>

1	I want to be a high school student because I like to teach student. I think that I teach baseball. It's a hard job. So, I will study a lot. I am very interesting.
---	---

本研究部では、ルーブリック作成の過程において、二つの気づきがあった。

一つは、指導者の評価に関する考えが深まった点である。複数の目で生徒作品の段階（レベル）分けを行った。そして意見の相違が見られた。指導者が同じ基準（生徒に求める姿）で指導していると思っけていても、実際には評価に違いがあることがわかった。そこで、指導者同士が意見交換を行うことで評価基準への共通認識が深まり、評価の客観性や妥当性が高まりを期待できると考えられる。特に、複数名で指導を行う場合には、継続して評価基準の修正や改善を加えるが大切であろう。

もう一つは、生徒の作品から指導過程の改善すべき内容が見えた点である。生徒の作品には表現内容が課題に適さない作品もあった。その原因として想定されている状況などを生徒が理解していないと考えた。生徒同士で相互に意見を出しあったり、課題を自己評価することで、よりよい表現に改善できるであろう。このように、指導の改善点が見いだせたことも、ルーブリックを作成した効果であった。

#### IV 実践例

##### 1 単元の最初に求める姿を提示する実践（第2学年）

1. 単元名 Program 6 Our Hopes, Our Plans ~将来したいことについて話し合おう~

2. 単元の目標

- ・将来したいことについて進んで話したり、持っているものや欲しいものを説明したりしようとする。 (コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・不定詞の3つの用法を用いながら、目的や自分のしたいことを正しく話したり、事物を説明したりできる。 (表現の能力)
- ・本文の内容や友人の話す文の伝えようとしていることを理解できる。 (理解の能力)
- ・不定詞の3つの用法の意味や使い方を理解し、適切に用いることができる。 (言語や文化についての知識・理解)

3. 単元の指導計画（総時数8時間）

	学習活動と主な思考の流れ	関心	表現	理解	言語	評価規準・評価方法 (◇) 支援 (○)
--	--------------	----	----	----	----	-------------------------

<p>第一 次(2 時間)</p>	<p>Program 6-1 〈将来について語り合えるようになるろう〉【本時】 ○「～したい」と言ってみよう。 ・ to を抜かさずに表現しよう。 ・ to の後の動詞の形に気をつけよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「～したい」「～なりたい」は、to+動詞 の原形で表す。 I want to 動詞の原形.</p> </div> <p>○将来、自分がやりたいことを伝えよう。 ・ 就きたい職業や夢を話してみよう。 ・ なりたい理由は何だろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>将来について語ろう。 I want to be an engineer because I like science.</p> </div>	○	○		<p>・自分がやりたいこと や、その理由を 2文程度でスムー ズに述べている。 ◇発表、ワークシ ート ○悩んでいる生徒 には将来に関連す る質問をし、考え させる。 ○内容に関連する 単語を与えたり、 組み立ての構想を 助言したりする。 ◇将来、自分がやり たいことを「～す ること」という不 定詞の名詞的用法 を用いて正しく書 くことができる。</p>
	<p>Program 6-1 〈「～すること」は英語ではどうい うのだろう?〉 ○「野球を見るのが好き」はどう言うのだろう。 ・ 「見る」ではなく「見ること」は、watch に何か をつける。 ○「～することが好き」と話してみよう。 ・ to を抜かさずに表現しよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「～すること」は、to+動詞の原形で表す。 I like to 動詞の原形. I want to 動詞の原形.</p> </div> <p>○本文の登場人物の夢は何だろう。 ・ Martin やJulie が将来したいことは何だろう。 ・ 2文目に理由や関連している文が続いている。 ○自分の夢について語り合う対話文を作り、発表し よう。 ・ 就きたい職業や夢を話してみよう。 ・ 理由や2文目はどんな内容にしよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>夢について、何も見ずに英文で語ろう。 I want to be a chef because I like to eat. I want to be rich, so I have to study hard.</p> </div>	○			<p>・好きなことを正し く述べ、「～する こと」の形や意 味、用法を理解で きる。 ◇発表、ワークシ ート ○to をつけない英 文を発話してみ て、動詞が2つで はおかしいこと を感じさせる。  ○日本文と英文を 比べさせる。</p>

<p>第二 次（2 時間）</p>	<p>Program 6-2 〈「～するために」の表現を知ろう〉 ○「～するために…する」はどのように言えばよいか。 ・文章の後にto+動詞の原形がついている。 ・前回と同じ形だが、意味が違っている。 ○日常の行動に、目的を付け足して話してみよう。 ・文に不定詞を付け加えればよい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>行動「～する」の目的「～するために」を言う場合は、文にto+動詞の原形をつければよい。</p> </div>			<p>○・いろいろな行動の目的を正しく述べている。 ◇発表、ワークシート ○ワークシートや板書で、視覚的に文を提示する。 ○簡単な動詞から徐々に複雑なものに変えていく。</p>
	<p>Program 6-2 〈Li やYuki がしたいこととその目的は何だろう〉 ○Li の夢とその目的は何だろう。内容を聞いてみよう。 ・Li やYuki のように夢を語れるようになりたい。 ・大介の夢は何だろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Li やYuki の夢が読み取れた。 I'd like to go to college to study math. I want to be a music teacher and teach children.</p> </div>			<p>○・section 2 の要点を正しく読み取っている。 ◇発表・ノート ○ピクチャーカードを用いて、聞き取りのヒントにする。</p>
<p>第三 次（2 時間）</p>	<p>Program 6-3 〈「～するための…」はどのように言えばいいのだろう〉 ○「私は何かを持っています」を英語にすると？「～するためのものを持っています」を英語にするは？ ・I have something .... ならわかる。 ・cold water のように、日本語の「形容詞+名詞」と語順が同じものとwater to drink のように違うものがある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「～する（ための）ー」は名詞+to 動詞の原形</p> </div>			<p>○・「～するための…」の語順に注意して単語を並べている。 ◇発表・ワークシート ○語順に慣れるために、いろいろな例文を示す。</p>

	<p>Program 6-3 〈大介の夢を読み取ろう〉</p> <p>○大介の違った夢は、どんなものなのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大介のようにまとまった英文で、夢に関するスピーチ原稿が書けそうだ。</li> <li>・many things to learn の語順が難しい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>大介の夢は、I want to ～. に加えて、 I have many things to learn. と 言っている。</p> </div>			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大介のスピーチの内容と形式を正しく理解している。</li> <li>◇発表、ワークシート</li> <li>○理解できた上でフレーズごとに音読を何度もさせる。</li> </ul>
第四 次(2 時間)	<p>Let's Practice &amp; Let's Communicate 〈「夢」についてまとまった文章を書こう〉</p> <p>○将来、自分のやりたいことを英語で説明しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6-1で話したことを書こう。</li> <li>・就きたい職業は決まっていなくても、夢なら書ける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>不定詞や既習の表現を使ってまとまった文が書けた。</p> </div>	○	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来について目的にあったまとまった英文を書いている。</li> <li>◇ワークシート</li> <li>○内容に関連する単語を与えたり、組み立ての構想を助言したりする。</li> </ul>
	<p>○将来、自分のやりたいことを英語で紹介しあう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のやりたいことを聞いて、感想を持とう。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで将来について発表したり、聞きあったりして、感想をもつことができる。</li> <li>◇ワークシート</li> </ul>

#### 5. 本時の学習活動 (①/8時)

##### (1) 目標

○将来、自分がやりたいことについて、英語で積極的に話そうとしている。(関・意・態)

○将来、自分がやりたいことを「～すること」という不定詞の名詞的用法を用いて、正しく書くことができる。(表現)

##### (2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価上の留意点
導入 8分	<p>1 Greetings</p> <p>2 Sing a song 『HELP!』</p> <p>3 Makiko's English (input 活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元氣よくあいさつさせる。</li> <li>・学習の雰囲気高め、生徒の意欲を喚起させる。</li> </ul>	
展	<p>1 単元の学習課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を板書する。</li> </ul>	

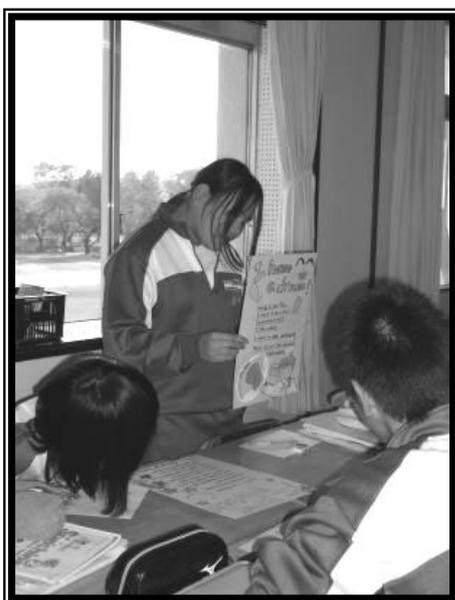
<p>開 5 分</p> <p>8 分</p>	<p><b>将来やりたいことを語ろう</b></p> <p>単元の最後に、将来、自分がやりたいことをポスターセッションで紹介し合うことを知る。</p> <p>2 ポスター作りに必要な表現の一つ（不定詞の名詞的用法）を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターを用いて例示し、単元のゴールを明確にする。</li> <li>・未習の表現もポスターをヒントに推測し、大意を把握させる。</li> </ul>	
	<p>&lt;将来やりたいことを語ろう&gt;</p> <p>I <b>want to</b> <u>go</u> to the park. 私は公園に行きたい。 ～したい ～になりたい</p> <p>I <b>want to</b> <u>be</u> a teacher. 私は先生になりたい。 動(原) 職業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「want to+動詞の原形」の用法を説明し、「～になりたい」は、I want to be a ～であることを押さえる。</li> <li>・机間指導を行い、重要事項をノートに整理させる。</li> <li>・職業の単語を提示する。</li> <li>・生徒に問い返したり、投げかけたりする。例えば <b>Do you want to be rich (a teacher)?</b> など尋ね、さらに<b>Why (not)?</b> や<b>Do you ~?</b> で続けて会話することで表現活動に結びつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、自分がやりたいことについて、英語で積極的に話そうとしている。（関・意・態）</li> </ul>
<p>5 分</p> <p>7 分</p>	<p>習を行い、学習内容の定着を図る。</p> <p>4 Speaking Activities</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A : What do you want to be ? B : I want to be a baseball player. A : Why ? B : Because I like Ichiro. A : That's great !</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の夢と理由などを英文で表現する。早く終わった生徒は、対話文を見ないで言えるように覚えて待つ。</li> <li>・身近な人のいろいろな夢を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話例を練習した後、将来、自分がやりたいこと（職業や夢）とその理由を考えさせ、ワークシートに記入させる。</li> <li>・活動方法を理解させ、ラインが揃ったら座る指示をしておく。</li> <li>・会話中はアイコンタクトをとるように指示し、生徒の活動を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のやりたいことについて理由などとともに紹介できる。（表現）</li> </ul>
<p>5 分</p> <p>7 分</p>	<p>5 Writing Activities</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達の将来について、1文で書く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>I want to ~ because… I want to be a singer because I like music. Yuki wants to be a vet because she loves dogs.</p> </div> <p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5で書いたことを発表させ、授業を振り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・want toの表現に、becauseで理由を加え、一文で書けるようにする。</li> <li>・板書を音読するなど、本時の学習を復習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、自分がやりたいことを「～すること」という不定詞の名詞的用法を用いて、正しく書くことができる。（表現）</li> </ul>

3分	返る。		
整理 2分	1 本時の活動を振り返り、次時の予告を聞く。 2 Greetings	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価カードに記入させ、予習の指示をする。</li> <li>元氣よくあいさつさせる。</li> </ul>	

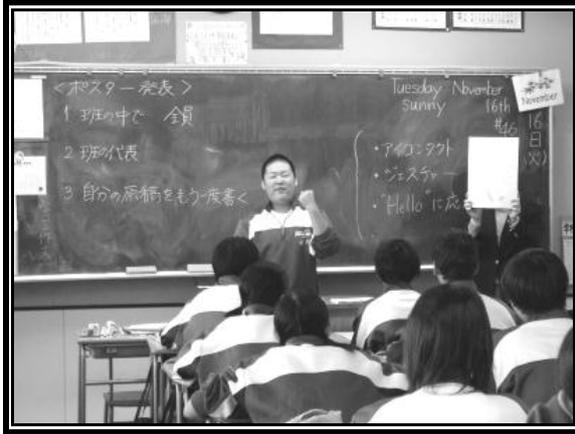
2 課題を発表する様子（第2学年）



しっかり英語で表現しよう

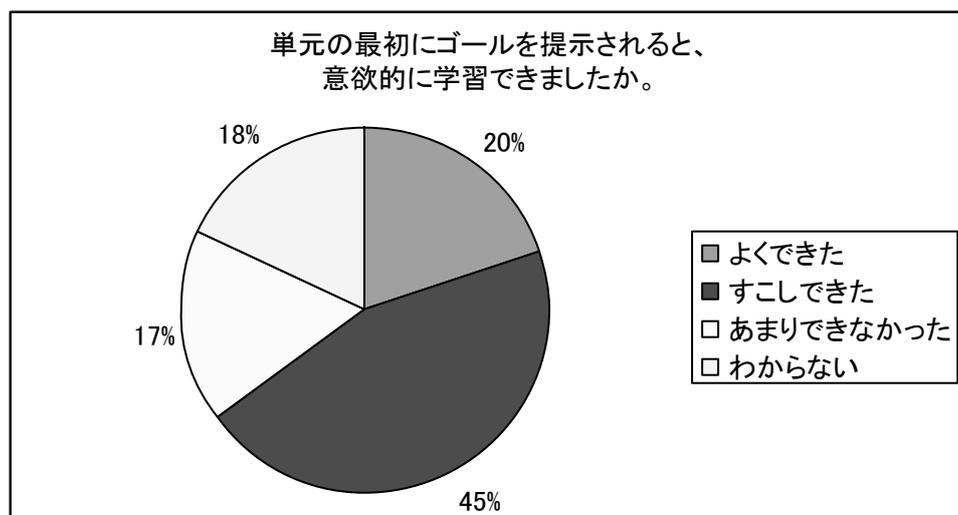
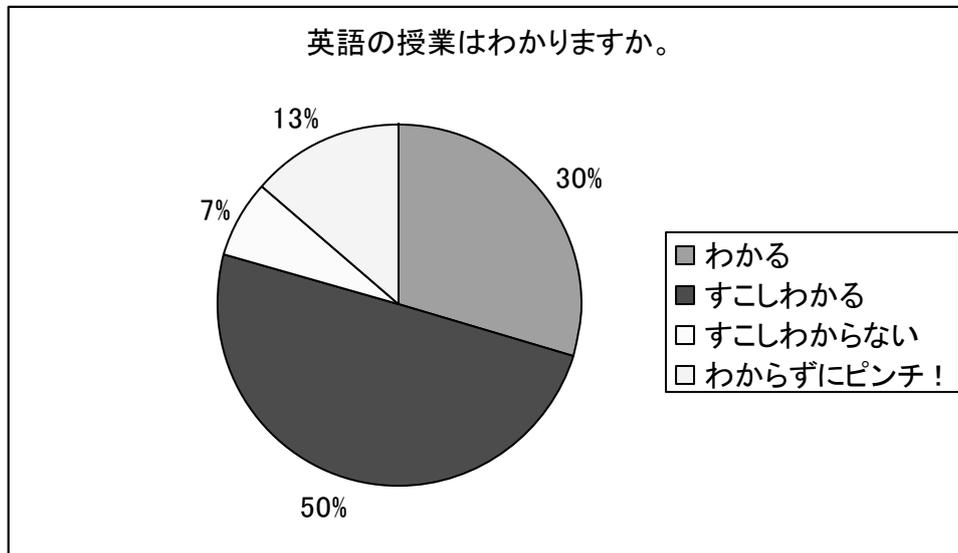


最初は班の中で発表しよう！



班の代表として全員の前で！

## V 生徒アンケート結果



## VI 成果と課題

### 1 成果

- (1) ゴールを明確に示すことで、取り組むべき課題がはっきりできた。また、導入で生徒の意欲を喚起するだけでなく、単元全体を通して生徒の意欲を継続させることもできた。
- (2) 単元全体を見通したので一時間の授業での指導内容が絞り込まれた。
- (3) ルーブリックの作成によって、目標と指導と評価の改善につながった。

## 2 課題

- (1) 既習の表現も踏まえて課題に取り組ませたが、個別指導に時間がかかるためAETとの協力などの方策が事前に必要である。
- (2) 指導内容が絞り込まれたので、生徒の個性的な自己表現はあまり見られなかった。
- (3) 評価の客観性や妥当性を高めるために、今後も継続して修正や改善を行うなど指導者側の習熟が必要である。